

[特別講義]

,の正体

完全版

◆ 第1章 カンマの基本 10 分類(機能別)	4
1-1【導入のカンマ】Introductory comma.....	4
1-2【並列のカンマ】Listing / Serial comma.....	4
1-3【同格のカンマ】Appositive comma.....	5
1-4【挿入のカンマ】Parenthetical comma(概要)	5
1-5【非制限用法のカンマ】Non-restrictive comma.....	5
1-6【接続詞前のカンマ】Coordinating comma.....	6
1-7【形容詞の後のカンマ】(等位形容詞)	6
1-8【対比・強調のカンマ】Contrastive comma.....	7
1-9【引用のカンマ】Quotation comma	7
1-10【分詞構文のカンマ】Participial comma	7
◆ 第2章 カンマの位置で意味が変わる表現.....	8
2-1 関係詞節:制限用法 vs 非制限用法	8
2-2 so that:目的 vs 結果	8
2-3 to V と , to V(目的 vs 結果・展開)	8
2-4 until と , until(継続 vs 結果)	8
◆ 第3章 挿入のカンマ(Parenthetical comma)9 分類.....	9
3-1【主節の後の挿入】Main-clause interruption	9
3-2【従属接続詞(副詞節)の後の挿入].....	9
3-3【前置詞の後の挿入].....	9
3-4【等位接続詞 and / but / or の後の挿入]	10
3-5【主語の後の挿入]	10
3-6【自動詞の後の挿入].....	10
3-7【他動詞の後の挿入]V+挿入+O	10
3-8【副詞的挿入(in fact / however など)]	11
3-9【共通構文(shared object / complement)].....	11
◆ 第4章 and / or / but のカンマ有無による意味差.....	11
4-1 A and B(カンマなし)=単なる並列.....	11
4-2 A, and B(カンマあり)＝「文+文」	11
4-3 A but B(カンマなし)=語・句レベルの対比	12
4-4 A, but B(カンマあり)=文レベルの対比	12
4-5 A or B(カンマなし)=選択	12
4-6 A, or B(カンマあり)=言い換え(つまり).....	12
◆ 第5章 完全文・不完全文とカンマ	12
5-1 不完全文の後のカンマ	12
5-1-1 不完全文+挿入(insertion).....	13

5-1-1B 副詞要素(句・節)の挿入 (insertion of adverbial phrase/clause) ...	13
5-1-2 不完全文+同格(apposition)	13
5-1-3 不完全文+説明(=同格説明)	14
5-2 完全文の後のカンマ	14
5-2-1 完全文, 副詞節(because / until / even though など).....	14
5-2-2 完全文, to V(結果・展開)	14
5-2-3 完全文, Ving(結果・継続・同時・手段)	15
5-2-4 完全文, 形容詞()	16
5-2-4 完全文, 名詞(同格=説明)	16
◆ 第6章 注意するカンマ(難関大学入試必須).....	17
6-3-1 一般的ケース:4つの科目が並列	17
6-3-2 別の可能性:Aを説明する同格として B, C, D が並ぶ.....	17
6-4 副詞節+副詞節+主節の読み方	18
6-5 副詞節+分詞構文+主節の読み方	20
6-5-1 原則:分詞構文は“直後の主節”に最も強くかかる.....	20
6-5-2 例文で確認	21
6-5-3 訳す順番(高校生向けの实用ルール)	21
6-5 副詞節+関係詞(継続用法)+主節の読み方.....	22
6-7 副詞節+関係詞(継続用法)+主節の読み方.....	24

◆ 第1章 カンマの基本 10 分類(機能別)

1-1【導入のカンマ】Introductory comma

① 何をするカンマか

文頭に来る 副詞句・副詞節・分詞構文 と、あとに続く 主節 を区切るためのカンマ。

- ・ 読み手に「ここまでが前置き、ここからが本題」と示す役割。

② なぜ必要か

- ・ 導入部分が長いと、どこからが本当の文の骨格(S+V)なのか見えにくくなる。
- ・ 副詞節・分詞構文は構造的に主節と独立しているので、カンマで境目を明示する必要がある。

③ 例文+訳

- | |
|---|
| <p>a. After the meeting, we went out for dinner.
会議のあとで、私たちは外食した。〈前置詞句, 完全文〉</p> <p>b. When the sun rose, the birds began to sing.
太陽が昇ると、鳥たちは歌い始めた。〈副詞節, 完全文〉</p> <p>c. Having finished his homework, he went out to play.
宿題を終えて、彼は外へ遊びに出た。〈副詞句(分詞構文), 完全文〉</p> |
|---|

1-2【並列のカンマ】Listing / Serial comma

① 何をするカンマか

同じ種類の語・句・節 を並べるときに、それぞれを区切る。

② 詳細

- ・ 名詞の並列: apples, oranges, and bananas
- ・ 形容詞の並列: tall, smart, and kind
- ・ 不定詞の並列: to study, to work, and to succeed
- ・ 節の並列: that S V, that S V, and that S V …

③ 例文+訳

- | |
|---|
| <p>a. I bought apples, oranges, and bananas.
私はリンゴとオレンジとバナナを買った。</p> <p>b. He wants to study abroad, to work hard, and to succeed in life.
彼は留学し、努力し、そして人生で成功したいと望んでいる。</p> |
|---|

④ Oxford comma(and / or の前のカンマ)

- ・ I bought apples, oranges, and bananas.
- ・ I bought apples, oranges and bananas.

どちらも正しいが、

“A, B, and C” のほうが「B and C がまとまり」だと誤解されにくい。

→ 英文解釈では「Oxford comma=あいまいさ回避のカンマ」と押さえておくと便利。

1-3【同格のカンマ】Appositive comma

① 何をするカンマか

名詞を、別の名詞で言い換えたり、言い換えを追加するときに用いる。

② パターン

1. 名詞＋同格名詞
2. 完全文＋同格名詞
3. 抽象名詞＋the freedom to V などの説明

③ 例文＋訳

- a. He has only one goal, success.
彼にはただ一つの目標がある——成功だ。
- b. My brother, a doctor, works in Tokyo.
私の兄は——医者なのだが——東京で働いている。
- c. Freedom, the freedom to choose one's way, is essential.
自由——すなわち、自分の進む道を選ぶ自由——は不可欠だ。

1-4【挿入のカンマ】Parenthetical comma(概要)

① 何をするカンマか

文の途中で 補足情報(挿入句)を入れるとき、その前後に置くカンマ。

② 例文＋訳

- a. The teacher, I think, will agree with us.
先生は——私が思うに——私たちに賛成してくれるだろう。
- b. This book, which I bought yesterday, is very interesting.
この本は——昨日買ったのだが——とても面白い。

③ 詳細分類は第4章へ

1-5【非制限用法のカンマ】Non-restrictive comma

① 何をするカンマか

関係詞節や副詞節が「補足説明」として付け足されるときにカンマを置く。関係詞節の場合は、先行詞を「限定」するのではなく、「おまけ情報」として説明する。

② 例文＋訳

c. My father, who loves fishing, goes to the lake every weekend.
釣りが好きな私の父は、毎週末その湖へ行く。

→ “who loves fishing” は「父」が誰かを限定しているわけではなく、「父」についての おまけ情報。

③ so that の違い

a. He spoke slowly so that everyone could understand.
彼は皆が理解できるように、ゆっくり話した。(目的)

b. He spoke slowly, so that everyone could understand.
彼はゆっくり話した。その結果、皆が理解できた。(結果)

※ so that の詳細は第 2 章 2-2 も参照。

1-6【接続詞前のカンマ】Coordinating comma

① 何をするカンマか

独立節(S+V)と独立節(S+V) を

and / but / so / yet / for でつなぐとき、その前に置く。

② 例文+訳

I wanted to go out, but it was raining.

外出したかったが、雨が降っていた。

He was tired, so he went to bed early.

彼は疲れていたの、早く寝た。

It was raining, for the streets were wet.

雨が降っていた。というのも、通りが濡れていたからだ。

③ ポイント

- and / but / so / yet / for の後ろに新しい主語+動詞が来るなら、カンマを置く。
- 逆に、come and see / small but strong など「語と語」をつなぐだけならカンマ不要。

1-7【形容詞の後のカンマ】(等位形容詞)

◆ 形容詞のあとにカンマを置ける唯一のケース

通常、英語では〈形容詞+名詞〉の語順にカンマを置くことは「絶対にしない」。形容詞は名詞の直前でひとまとまりの修飾語(名詞句)をつくるため、そこにカンマを入れると文構造が壊れてしまう。しかし、形容詞が 2 つ以上並び、それぞれが名詞を独立した視点から説明している場合、つまり 等位形容詞(coordinate adjectives) のときだけ、形容詞の後にカンマを置くことが許される。

◆ 等位形容詞の例(このときだけカンマが可能)

✓ a long, boring movie

長くて退屈な映画

「long(長い)」と「boring(退屈な)」は、それぞれが映画の性質を独立に説明しており、どちらも主たる名詞 movie を形容詞として“対等に”修飾する。

✓ a strange, wonderful idea

奇妙で、そして素晴らしい考え

“strange” と “wonderful” は、どちらも idea を別々の角度から描写しており、語順を変えても意味の中心は変化しない。

→ この「対等に並ぶ形容詞」だけが カンマ挿入の例外。

1-8【対比・強調のカンマ】Contrastive comma

① 何をするカンマか

not, yet, rather, instead などと組み合わせて、対比・訂正・強調をくっきり見せる。

② 例文+訳

- | |
|---|
| <p>a. He was tired, not bored.
彼は退屈していたのではなく、疲れていた。</p> <p>b. She was small, yet powerful.
彼女は小柄だったが、力強かった。</p> |
|---|

1-9【引用のカンマ】Quotation comma

① 何をするカンマか

セリフ・引用を導く動詞の直後に置く。

② 例文+訳

He said, “I’ll be there soon.”

彼は「すぐに行くよ」と言った。

1-10【分詞構文のカンマ】Participial comma

① 何をするカンマか

分詞構文 / 独立分詞構文 と主節を区切る。

② 例文+訳

- | |
|---|
| <p>a. Having finished his homework, he went out.
宿題を終えて、彼は外出した。</p> <p>b. The weather being fine, we went for a walk.</p> |
|---|

天気が良かったので、私たちは散歩に出かけた。

◆ 第2章 カンマの位置で意味が変わる表現

2-1 関係詞節:制限用法 vs 非制限用法

- a. My sister, who lives in Tokyo, is a teacher.
私の姉は東京に住んでいて、教師をしている。
(姉は一人。who 以下は「補足」。)
- b. My sister who lives in Tokyo is a teacher.
東京に住んでいる姉のほうが教師だ。
(姉が複数いて、そのうち東京に住むほう。)

👉 カンマあり = 「おまけ情報」

👉 カンマなし = 「どの人かを限定」

2-2 so that:目的 vs 結果

- a. He spoke slowly so that everyone could understand.
彼は皆が理解できるように、ゆっくり話した。(目的)
- b. He spoke slowly, so that everyone could understand.
彼はゆっくり話した。その結果、皆が理解できた。(結果)
- c.

- カンマなし → “～するために”(目的)
- カンマあり → “その結果～”(結果・説明)

2-3 to V と , to V(目的 vs 結果・展開)

- a. He woke up early to catch the first train.
彼は始発列車に乗るために早起きした。(目的)
- b. He opened the door, to find his friends waiting for him.
彼がドアを開けると、友人たちが彼を待っているのを見つけた。

(結果・「そして～することになる」)

He hurried, only to miss the train.

彼は急いだが、結局電車に乗り遅れただけだった。

(only to V = 失望・無駄な結果)

2-4 until と , until(継続 vs 結果)

- a. He worked hard until he became ill.

彼は病気になるまで懸命に働き続けた。(ただの「～まで」)

b. He worked hard, until he became ill.

彼は懸命に働き続け、ついに病気になった。(結果・転換点)

☞ until:主節と一体となって「～までずっと」

☞ , until:主節が完結し、「その結果ついに～まで」という結果を表す。

2-5 not ~ because SV / not ~, because SV

a. She didn't marry Tom because he was kind to her.

彼女がトムと結婚したのは、彼が優しかったからではない。

(=結婚したが、理由は優しさではない。)

b. She didn't marry Tom, because he was kind to her.

彼女はトムと結婚しなかった。というのも、彼が彼女に優しかったからだ。

ポイント

- カンマなし:理由づきのかたまりを not が否定
→ “～だから…した/しなかった” を丸ごと否定
- カンマあり:主文の事実+because であとから説明

◆ 第3章 挿入のカンマ(Parenthetical comma)9分類

3-1【主節の後の挿入】Main-clause interruption

a. He finished his homework, I think, before dinner.

彼は宿題を終えた——私が思うに——夕食前に。

b. She will win the competition, I'm sure, if she keeps training.

彼女は大会に勝つだろう——私が確信しているのだが——もし練習を続ければ。

3-2【従属接続詞(副詞節)の後の挿入】

c. Although, as you know, the plan failed, we learned a lot.

ご存じのように、その計画は失敗したが、私たちは多くを学んだ。

d. Because, frankly speaking, he was tired, he left early.

率直に言えば、彼は疲れていたので、早く帰った。

3-3【前置詞の後の挿入】

a. In, as I recall, the early summer, we met again.

思い返せば、初夏に、私たちは再会した。

b. Between, as you probably know, the two villages, a small river flows.

ご存じのとおり、その2つの村のあいだには、小さな川が流れている。

3-4【等位接続詞 and / but / or の後の挿入】

a. He tried hard, but, to be honest, he failed.

彼はがんばったが、正直に言えば、失敗した。

b. She was tired, and, as you might expect, she went straight to bed.

彼女は疲れていて、そして予想どおり、すぐ寝た。

3-5【主語の後の挿入】

a. My brother, as you know, is a doctor.

私の兄は——ご存じのように——医者だ。

b. My sister, if I remember correctly, will move to Tokyo next year.

私の姉は——もし私の記憶が正しければ——来年東京へ引っ越す予定だ。

c. My uncle, who lives in Canada, is visiting us next month.

私の叔父は——カナダに住んでいるのだが——来月私たちを訪ねてくる。

d. The players, feeling confident, entered the stadium.

その選手たちは——自信を感じていて——スタジアムに入った。

3-6【自動詞の後の挿入】

a. She looked, with great care, for her lost passport.

彼女は——細心の注意を払って——紛失したパスポートを探した。

b. She sings, I think, beautifully.

彼女は——私が思うに——とても美しく歌う。

3-7【他動詞の後の挿入】V+挿入+O

a. He said, quite frankly, what he really thought.

彼は——率直に言えば——本当に思っていたことを口にした。

b. He considered, as the teacher suggested, withdrawing from the contest.

彼は——先生が勧めたように——大会から撤退することを考えた。

- c. He read, smiling softly, the letter she had sent him.
彼は——ほほえみながら——彼女が送ってきた手紙を読んだ。

3-8【副詞的挿入(in fact / however など)】

- a. She is, in fact, a brilliant pianist.
彼女は——実際——すばらしいピアニストだ。
- b. He became, surprisingly, the youngest winner in history.
彼は——驚いたことに——史上最年少の受賞者になった。

3-9【共通構文(shared object / complement)】

- a. He wrote, and later revised, the report.
彼はその報告書を書き、そして後にそれを修正した。
- b. He worked in, and later moved to, the same city.
彼は同じ町で働き、のちにその町へ引っ越した。
- c. He cleaned, and then repaired, the machine.
彼はその機械を掃除し、そしてその後修理した。

→ いずれも、

wrote the report / revised the report

in the same city / moved to the same city

cleaned the machine / repaired the machine

という「共通の目的語」を後ろにまとめただけ。

◆ 第4章 and / or / but のカンマ有無による意味差

4-1 A and B(カンマなし) = 単なる並列

- a. He bought apples and oranges.
彼はリンゴとオレンジを買った。
- b. He opened the window and looked outside.
彼は窓を開けて外を見た。

→ 語・句・節が 同じレベルで並んでいるだけ。

4-2 A, and B(カンマあり) = 「文+文」

- a. He bought some fruit, and he ate it soon after.
はいくらか果物を買って、そしてすぐにそれを食べた。
- b. The sun set, and the temperature dropped quickly.

日が沈み、そして気温が急激に下がった。

→ and の後に新しい主語 + 動詞が来る。

→ “A . And B .” を 1 文にした形。

4-3 A but B(カンマなし) = 語・句レベルの対比

a. She is small but strong.

彼女は小柄だが、力強い。

b. He was tired but happy.

彼は疲れていたが、幸せだった。

4-4 A, but B(カンマあり) = 文レベルの対比

a. She wanted to go out, but she was sick.

彼女は外出したかったが、病気だった。

b. He studied hard, but he didn't pass the exam.

彼は熱心に勉強したが、試験には合格しなかった。

4-5 A or B(カンマなし) = 選択

a. You can go now or later.

今行ってもいいし、後で行ってもよい。

b. It might rain or snow tomorrow.

明日は雨か雪かもしれない。

4-6 A, or B(カンマあり) = 言い換え(つまり)

a. He is frugal, or careful with money.

彼は儉約家だ。つまり、お金の使い方に慎重だ。

b. It was late, or too late for us to catch the last train.

遅い時間だった。つまり、私たちが終電に乗るには遅すぎた。

→ “or=または” ではなく、“つまり / 言い換えれば” の or。

◆ 第 5 章 完全文・不完全文とカンマ

5-1 不完全文の後のカンマ

不完全文の直後に置くカンマで許されるのは、基本的に① 挿入(insertion) ② 同格(apposition) ③ 説明(同格の一種) の 3 つのみ。

※理由: 主語・動詞・目的語など、文の主要構造(SVO)を壊してはいけないため。

5-1-1 不完全文+挿入(insertion)

不完全文(=まだ文として閉じていない部分)の途中で、文の骨格に無関係な情報を挟む場合に使うカンマ。挿入は次の2種類に分けられる。

5-1-1A 主節の挿入(main-clause insertion)

話し手の判断・感想・推量など、S+Vを備えた独立文(完全文)が丸ごと挟まるタイプ。

The man we met yesterday, I think, is a famous writer.

昨日私たちが会ったその男性は——私が思うに——有名な作家だ。

- ・“The man we met yesterday”はmanを修飾する不完全文(関係節相当)。
- ・“I think”は主節(S+V)であり、内容は「話し手のコメント」で文の意味に必須ではない。

- ・取り除いても文は完全に復元する:

→ The man we met yesterday is a famous writer.

- ・不完全文の途中で「独立した主節」を挟む場合に用いるカンマ。

5-1-1B 副詞要素(句・節)の挿入

(insertion of adverbial phrase/clause)

不完全文の途中で、副詞句や副詞節(=状況補足の情報)を挟むタイプ。

The man we met yesterday, as you know, is a famous writer.

昨日私たちが会ったその男性は——ご存じのように——有名な作家だ。

- ・“The man we met yesterday”は不完全文。
- ・“as you know”は副詞節(as S V:情報共有を表す)で、名詞の意味には関与しない。

- ・取り除いても主文は成立する:

→ The man we met yesterday is a famous writer.

- ・副詞的要素(態度・評価・状況)を後から差し込む場合の挿入カンマ。

※ 分詞構文(speaking frankly など)が入る場合も、この「副詞要素の挿入」に含めて考えられる。

5-1-2 不完全文+同格(apposition)

不完全文の直後に名詞を置き、その名詞自身を再説明する名詞句を続ける場合。

My friend John, the captain of our team, will visit us tomorrow.

私の友人ジョン——私たちのチームのキャプテンである——は明日訪ねてくる。

- ・“My friend John”はfriendとJohnの二重名詞で不完全文。
- ・“the captain of our team”はJohnを説明する同格名詞。

・同格は「名詞を“別の名詞”で言い換えて説明する」構造。

5-1-3 不完全文+説明(=同格説明)

抽象名詞の説明・定義づけ・言い換えとして名詞句を置く。

The idea of freedom, the right to choose one's path, is essential.
自由という考え——すなわち、自分の進む道を選ぶ権利——は不可欠だ。

- ・“The idea of freedom” は idea を of 以下で説明している 不完全文。
- ・“the right to choose one's path” は idea をさらに説明する 同格句。
- ・不完全文の直後に置ける名詞句は、「同格」としての説明に限られることを示している。

5-2 完全文の後のカンマ

完全文のあとにカンマを置いて続けられるのは、主に次の4タイプ。

- ・ ① 副詞節(because / until / even though など)
- ・ ② 不定詞 to V(結果・展開)
- ・ ③ 分詞構文 Ving(結果・継続・同時・手段)
- ・ ④ 名詞(同格=説明)

5-2-1 完全文, 副詞節(because / until / even though など)

完全文のあとにカンマを置き、理由・結果・条件・譲歩などを表す副詞節をぶら下げるパターン。

He worked hard, until he became ill.
彼は懸命に働き続け、ついに病気になった。

- ・“He worked hard.” が 完全文。ここだけで文は完結している。
- ・“, until he became ill” は「その結果どこまで続いたか」という転換点を示す副詞節。
- ・主文を先に完了させてから、「どの時点まで？」をあとから補うイメージ。

He decided to quit the job, because he was completely exhausted.
彼はその仕事を辞めることにした。というのも、完全に疲れ切っていたからだ。

→ “He decided to quit the job.” が完全文、その理由を because 以下で後置している。

5-2-2 完全文, to V(結果・展開)

完全文のあとにカンマ+to V を置き、「その結果どうなったか」「思いがけない展開」を示すパターン。

He opened the door, to find his friends waiting for him.
 彼がドアを開けると、友人たちが彼を待っているのを見つけた。

- ・“He opened the door.” が 完全文。
- ・“, to find …” は「その結果として～することになる」という展開。
- ・「～してみると(その結果)…だった」という読解上の目印になる。

He hurried, only to miss the train.
 彼は急いだが、結局電車に乗り遅れただけだった。

- only to V は「失望・むだ足の結果」を表す定型表現。
 完全文+カンマ+to V のパターンの一種として押さえる。

5-2-3 完全文, Ving(結果・継続・同時・手段)

分詞構文(Ving)は、主文に対して 独立に付け加わる副詞情報 を表せるため、完全文と自然に結びつく。意味はおもに次の4つに分けられる。

(1) 結果(Result)

He opened the door, finding his friends waiting for him.
 彼がドアを開けると、友人たちが彼を待っているのを見つけた。

- ・“He opened the door.” が 完全文。
- ・“finding …” はその 結果として起こる出来事 を表す。

(2) 継続(Continuation)

He sat at his desk, thinking deeply about the problem.
 彼は机に向かって座り、その問題について深く考え続けた。

- ・「座る」という状態が続き、そのまま「考えていた」という動作が 継続している。

(3) 同時(Simultaneous)

She walked through the park, listening to music.
 彼女は公園を歩きながら、音楽を聴いていた。

- ・“walked” と “listening” が 同時進行 の関係になっている。

(4) 手段・方法(Means)

He saved the child, pulling him away from the fire.
 彼は子どもを救った——火から引き離すことで。

- ・“saved the child” が主文。
- ・“pulling him away from the fire” は「どのように救ったか」という 手段・方法を表す。

5-2-4 完全文, 形容詞()

- a. The meeting ended on time, unusual for this company.
会議は定刻に終わった——この会社では珍しいことだが。
- b. He walked into the room, confident of his success.
彼はその部屋に入っていった——成功を確信して。
- c. He accepted the offer, wise in hindsight.
彼はその申し出を受け入れた——今振り返れば賢明だった。

- a.
- “The meeting ended on time.” で文はすでに完結。
 - “unusual for this company” は 主節の出来事に対する評価(話者コメント)。
 - “which was unusual for this company” を圧縮した非制限的説明。
 - カンマ以降は「挿入情報」であり、なくても文は完全。
- b.
- “He walked into the room.” は完全文。
 - “confident of his success” は 主語(He)の心理状態 を補足する形容詞句。
 - “who was confident of his success” の圧縮表現。
 - 主節の動作(入室)に付随する心の状態を述べている。
- c.
- “He accepted the offer.” が完全文。
 - “wise in hindsight” は その決断の評価(後知恵の評価) を表す形容詞句。
 - “which was wise in hindsight” の圧縮に相当。
 - 主節の内容に対する後からの判断・評価として付与されている。

5-2-4 完全文, 名詞(同格=説明)

完全文のあとに名詞句を置き、その前の名詞を言い換え・説明するパターン。

- He achieved his dream, a complete freedom of choice.
彼は自分の夢——完全な選択の自由——を実現した。

- “He achieved his dream.” は 完全文。
- “a complete freedom of choice” は dream を説明する 同格名詞。
- 完全文の後なので、この同格句は 主文にぶら下がる「説明」として機能する。
- 削っても文は成り立つが、意味内容が具体的でなくなる、という関係。

◆ 第6章 注意するカンマ(難関大学入試必須)

6-3 注意すべき特殊カンマ:A, B, C, and D の読み分け

A, B, C, and D の形は、一般的には 4 要素の並列 と読む。

しかし、文脈次第では A の同格説明として B・C・D が並列 する場合があります、精読において注意すべきポイントとなる。

6-3-1 一般的ケース:4つの科目が並列

He studies English, math, physics, and chemistry.

彼は英語・数学・物理・化学を勉強している。

- A=English
- B=math
- C=physics
- D=chemistry

→ 4 科目が同じレベルで並列するだけで、最も自然な読み。

この読み方は誤読リスクが低いですが、文脈によっては別構造になる可能性がある。

6-3-2 別の可能性:A を説明する同格として B, C, D が並ぶ

He focuses on the core subjects, English, math, and Japanese.

彼は主科目——英語・数学・国語——に重点を置いている。

- A=the core subjects(抽象名詞)
- B=English
- C=math
- D=Japanese

→ B, C, D は A の具体例(同格)として並んでいる。

【誤読の例】

He focuses on the core subjects, English, math, and Japanese.

→ 4 つ(core subjects, English, math, Japanese)の列挙と誤解しがち。

実際には core subjects の内訳 が English / math / Japanese の 3 科目である。

6-3-3 追加パターン:A, B and C が並列 → D が同格(説明)

He teaches English, math and chemistry, the core subjects of the school.

彼は英語・数学・化学——この学校の主科目——を教えている。

- A=English

- B=math
- C=chemistry
→ 3 科目が並列(同列)
- D=the core subjects of the school
→ A・B・C 全体の 説明(同格)

【なぜこう読めるのか？】

- **D が抽象名詞(the core subjects)**で、A～C をまとめて言い換えられること
- and chemistry で並列が閉じ、
その後の , the core subjects が前のかたまりにぶら下がる構造になるため

→ この構造は学術文・評論文でとてもよく出る。

6-4 副詞節+副詞節+主節の読み方

(When ~ , because ~ , S V / If ~ , although ~ , S V など)

英語では、

主節の前に副詞節が2つ連続して置かれることがあります、

精読では「どの節がどこにかかっているか」を正しく判断する必要がある。

構造としては次の 3 部分:

- ① 副詞節 A
- ② 副詞節 B
- ③ 主節(S+V)

6-4-1 原則:副詞節は“直後の内容に強く結びつく”

2つの副詞節が連続するとき、

2つ目の副詞節(B)は、原則として“主節”にもっとも直接かかる。

理由

- 副詞節は「直後の節・文」を修飾するのが自然
- 英語は「距離が近いもの同士を結びつける」言語であるため

つまり構造は次のようになる:

- ① 副詞節 A(背景)
- ② 副詞節 B(主節に直接かかる条件・理由など)
↳ ③ 主節(中心内容)

6-4-2 例文で確認

When the sun rose, because the storm had passed, we started again.

太陽が昇ったとき、嵐が去っていたので、私たちは再び出発した。

- ① When the sun rose(背景となる時間状況)
- ② because the storm had passed(主節に直接の理由)
- ③ we started again(主節)

ポイント

- because 節は「出発した理由」を説明
- when 節は「その全体の状況の時間枠」を作っている

If you finish early, although the task is difficult, you can take a break.

もし早く終わるなら、たとえその作業が難しくても、休憩してよい。

- ① If you finish early(主節に対する条件)
- ② although the task is difficult(条件の“中身”に付随する譲歩)
- ③ you can take a break(主節)

ポイント

- although 節は「If you finish early」という条件に対する付加説明
- 主節は常に “you can take a break”

6-4-3 訳す順番(高校生向けの实用ルール)

✓ 訳す順番は:① → ② → ③ で OK

理由

- ①②はどちらも「前置き」であり、日本語でも先に並べて問題がない
- 英語の語順と一致するので読みやすく誤訳が減る
- 大学入試では語順のまま訳すほうがミスが少ない

5-4-4 ただし、意味のつながりは「② → ③」で最も強い

訳す順番は①→②→③だが、意味の結びつきの強さは:② 副詞節 → ③ 主節 である。

理由

- ②が主節にもっとも直接つく
- ①は背景・状況の枠組みにすぎないことが多い

図解すると:

(弱い結びつき)

- ① When ～(状況の枠)
(強い結びつき)
 - ② because ～(主節を直接説明)
 - ③ 主節
-

6-4-5 高校生向けまとめ(最重要ポイント)

- 副詞節が2つ続くと、後ろの副詞節ほど主節に強くかかる。
- 訳す順番は英語の語順どおり「① → ② → ③」でよい。
- 意味上のつながりは ② → ③ が最重要。
- ①は状況・背景、②は主節の理由・条件・譲歩などになる。

このルールをおさえると、長い前置きがついた複雑な英文でも、主節の位置を見失わなくなる。

6-5 副詞節+分詞構文+主節の読み方

(When ～ , having finished ～ , S V / If ～ , listening to ～ , S V など)

英文では、副詞節(従属節)+分詞構文(非定形節)+主節のように、前置きが2つ連続することがよくある。

構造としては次の3部分:

- ① 副詞節(When / Because / If / Although / While / After …)
 - ② 分詞構文(V-ing / Having Vpp / Being+名詞 etc.)
 - ③ 主節(S+V)
-

6-5-1 原則:分詞構文は“直後の主節”に最も強くかかる

副詞節+分詞構文 の並びでは、

- 副詞節(①) … 背景・条件・時間枠
- 分詞構文(②) … 主節(③)に一番強く結びつく(理由・同時・継続・付帯状況)

という関係になる。

つまり:

- ① 副詞節:背景・前提
- ② 分詞構文:主節を直接説明(理由・同時・継続・付帯)
- ③ 主節:文の中心

副詞節同士が連続した 5-4 よりも、分詞構文は主節に密着しやすいという特徴がある。

6-5-2 例文で確認

When the meeting ended, feeling exhausted, we left quietly.
会議が終わったとき、疲れを感じながら、私たちは静かに退出した。

- ① When the meeting ended(時間の枠:背景)
- ② feeling exhausted(主節の動作の“付帯状況”)
- ③ we left quietly(主節)

ポイント

- 分詞構文 feeling exhausted は「どんな状態で去ったか」を説明
- When 節は全体の時間状況を示すだけ

Because the weather was bad, having been warned about danger, the hikers turned back.
天候が悪かったので、危険を警告されていたため、登山者たちは引き返した。

- ① Because the weather was bad(主たる理由)
- ② having been warned about danger(追加理由＝主節に直接かかる)
- ③ the hikers turned back(主節)

ポイント

- ②の分詞構文が主節の“turn back”の説明(追加理由)
- ①は大きな理由・背景

If you practice every day, working hard, you will improve soon.
毎日練習すれば、努力を続けることで、あなたはすぐ上達する。

- ① If you practice every day(条件の提示)
- ② working hard(上達するための手段・姿勢＝主節にかかる)
- ③ you will improve soon(主節)

ポイント

- working hard は「どのように練習するか」ではなく、「どのように上達していくか」を説明する付帯状況
- If 節は“前提条件”であり、主節の説明としては弱い

6-5-3 訳す順番(高校生向けの实用ルール)

✓ 訳す順番は:① 副詞節 → ② 分詞構文 → ③ 主節 で OK

理由

- ①②は前置きであり、日本語でも先に並べても自然
- 語順どおり訳すほうが、構造を見失わない

- 分詞構文の内容を主節の説明として最後に結びつけやすい

6-5-4 ただし意味のつながりは「② → ③」が最も強い

- 分詞構文(②)は 主節(③)と密接
- 副詞節(①)は背景・枠組み

図解すると:

(弱い結びつき)

① When ～(時間枠)

(強い結びつき)

② feeling exhausted(主節の付帯状況・理由・同時・継続)

③ we left quietly(主節)

6-5 副詞節+関係詞(継続用法)+主節の読み方

(When ～ , having finished ～ , S V / If ～ , listening to ～ , S V など)

英文では、副詞節(従属節)+関係詞(継続用法)+主節のように、前置きが2つ連続することがよくある。

構造としては次の3部分:

- ① 副詞節(When / Because / If / Although / While / After …)
- ② 関係詞(who, which, 前置詞 which etc.)
- ③ 主節(S+V)

6-6-1 構造の原則

全体の構造:

- ① 副詞節(When / Because / Although / If など)
 - ② 継続用法の which(=直前の文脈全体を説明)
 - ③ 主節(S+V)
- 副詞節① → 背景・条件・理由などの「枠」
 - which 節② → 副詞節①を受ける「補足説明」
 - 主節③ → 文の中心(最重要)

6-6-2 例文で確認

When the meeting ended, which took longer than expected, we went home.

会議が終わったとき——予想以上に長引いたのだが——私たちは帰宅した。

- ① When the meeting ended

会議が終わったとき(背景)

② which took longer than expected

その会議は予想以上に長引いた(副詞節①への補足)

③ we went home

私たちは帰宅した(主節)

- which は “the meeting ended” という状況全体を説明している
- 主節 we went home が文の中心
- which 節は「おまけ」であり、訳すときは挿入的に

Because he was late, which often happens, we started without him.

彼が遅れたので——よくあることだが——私たちは彼なしで始めた。

① Because he was late

彼が遅れたので(理由)

② which often happens

(遅刻は)よくあることだ(補足)

③ we started without him

私たちは彼なしで始めた(主節)

ポイント

- which often happens = 遅刻という状況全体の説明
- 主節への原因は①で示されており、②は追加のコメント

If you study hard, which I strongly recommend, you will succeed.

あなたが一生懸命勉強するなら——強く勧めることだが——成功するだろう。

① If you study hard

あなたが一生懸命勉強するなら(条件)

② which I strongly recommend

(その勉強するということを)私は強く勧める(補足)

③ you will succeed

あなたは成功するだろう(主節)

6-6-3 訳す順番(最重要ポイント)

✓ 訳す順番は:① → ② → ③(語順通り)で OK

理由

- ②(which 節)は完全な挿入・補足なので、日本語でも挿入として扱える
- ①(副詞節)は背景、③(主節)が本体

- ②だけを後ろに回すと不自然な日本語になりがち
語順通りで最も滑らかに訳せる。

6-6-4 「which(継続用法)」がどこにかかるか？

✓ 直前の“語”ではなく“状況・節全体”を受ける。

副詞節+カンマ+which の継続用法は、
副詞節全体を受けて“そのことは～”のように説明する働き。
誤読例：

× When the meeting ended, which took longer…

→ “the meeting” だけを受ける？(誤)

正しくは：

○ 「会議が終わったという状況全体」が長引いた、と読む。

5-6-5 読み方のコツ

★ which の継続用法 = 「そのことは～」と読む

→ 直前の文脈全体を説明。

★ 主節が最重要

→ which 節は“おまけ”扱いでよい。

★ 副詞節と主節の結びつきのほうが圧倒的に強い

→ which 節は補助的。

◆ 5-7 主語+分詞(後置修飾)と主語+カンマ+分詞構文の違い

これはカンマの学習で最も誤読の多い部分。

必ず区別して読むこと。

6-7 副詞節+関係詞(継続用法)+主節の読み方

(When ~ , having finished ~ , S V / If ~ , listening to ~ , S V など)

英文では、副詞節(従属節)+現在分詞、過去分詞+主節のように、前置きが2つ連続することがよくある。

構造としては次の3部分：

① 副詞節(When / Because / If / Although / While / After …)

② 現在分詞・過去分詞…カンマがない場合は、後置修飾で、直前の名詞を修飾する。
ある場合は、分詞構文で、文全体を修飾する。

③ 主節(S+V)

6-7-1 主語+V-ing / Vp.p.(カンマなし) = 後置修飾(形容詞的)

- 分詞は 名詞(主語)を直接修飾
- 文構造の一部として主語を説明
- 取り除くと主語の意味が欠けることが多い
- “どんな～か” の説明

The students taking the exam look nervous.

試験を受けている学生たちは緊張して見える。

taking the exam

→ どんな学生か？(学生を限定)

「試験を受けている(最中の)学生たちは～」※ 形容詞的なので“ながら”とは訳さない

5-7-2 主語+, V-ing / Vp.p., (カンマあり) = 分詞構文(挿入・補足)

- 主語に対する 挿入的・補足的情報
- 主節とは独立したニュアンス
- 「～なのだが」「～して、」「～しているが」といった方式で訳す
- 取り除いても主節の意味は成立

The students, taking the exam, look nervous.

その学生たちは——試験を受けているのだが——緊張して見える。

- look nervous(様子がそう見える)は動作ではないため、“～しながら” とすると不自然
- 分詞は「挿入・補足」と読むのが適切

「その学生たちは——試験を受けているのだが——緊張して見える。」

5-7-3 違いのまとめ(最重要)

形式	種類	役割	訳し方
S + V-ing(カンマなし)	後置修飾(形容詞)	名詞を限定する	「～している…」
S, V-ing, ...(カンマあり)	分詞構文(挿入)	主節への補足情報	「～なのだが」「～して」